

谷町六丁目駅(地下鉄谷町線・長堀鶴見緑地線)①

からほり

空堀・直木三十五ゆかりの地を行く

松屋町駅(地下鉄長堀鶴見緑地線)

「大阪あそ歩マップ集」
その2 No.098

地下鉄谷町六丁目駅

①直木三十五生家跡

直木三十五(本名・植村宗一)は、明治24年(1891)、安堂寺町2丁目(現・谷町六丁目交差点)で誕生しました。生家は市電開通時、道路の拡幅工事でなくなっています。ちょっと変わったペンネームについては、『私の履歴書』で「植村の植を二分して直木、この時、三十一才なりし故、直木三十一と称す」と記されています。35歳以降はずっと「三十五」のままでした。

②直木三十五寓居跡

現在の安堂寺町2-3です。近所に貸本屋と講釈場があり、講談に親しみました。これが直木文学の原点になりました。

③榎大明神・直木三十五文学碑

坂の途中にあります。「榎さん」と親しまれていますが、正しくは榎えんじゆです。樹齢約650年といわれています。直木はこの榎大明神の下で遊び、育ちました。文学碑は代表作『南国太平記』の一節が刻まれています。坂を下れば長堀通りです。



④御祓筋

榎大明神から北へ向かうと天満橋付近に出ますが、そのあたりは窪津(渡辺津)、八軒家浜という熊野詣の起点になったところ

です。お祓いを済ませてから出たので、御祓筋おほらいの名がついたといわれています。直木は、この御祓筋を下ってよく遊びに行っていました。

⑤複合再生長屋・練

空堀一帯は空襲の被害が比較的少なかった地域で、古くからの町家がたくさん残っています。練は、宮家の別荘として神戸の舞子にあった建物が、大正末期に現在の場所に移築されたもので、いろいろなショップが入った商業施設として生まれ変わりました。

⑥松屋町筋

雛人形やおもちゃ、駄菓子などのお店が並びます。大阪の人々は「まっちゃまち」と呼びます。

⑦空堀商店街

大正時代に地元の延命地蔵の縁日に夜店が出て、そのルート上に現在の商店街ができたといわれています。

⑧直木三十五記念館

複合文化施設「萌」の2階にあります。大正末期から昭和初期に活躍した直木三十五は、直木賞にその名を残しています。この記念館は地元の有志が尽力し、直木賞作家らも呼びかけ人として参加し、平成17年(2005)に完成しました。



⑨観音坂

かつて千手観音を祀るお寺が坂の上にあったことから、その名がついています。100年以上前からある石畳です。

地下鉄谷町六丁目駅

